



希望するシーンやタイプなど、様々な条件を入力することで、今の自分にぴったりの作品が検索できる〈日本橋 Art.jp〉のトップページ。

ポータルサイトへ日本橋 Art.jp を立ち上げたのだ。このサイトはいわば Web 上のギャラリーで、有名物作家から現代の画壇で活躍する作家、今後の活躍が期待される作家まで幅広い作品を掲載しており、作品を飾る場所や作品のタイプなど複数の条件を入力すれば、求めるアートを検索することもできる。また、作家や画廊オーナーのインタビューなどの情報コンテンツも抱負で、多角的な視点から日本美術を俯瞰できる。もちろん、このサイト

を通じて気になる作品を購入することも可能だ。まさにアートファン待望のサイトだと言えるだろう。

〈日本橋 Art.jp〉は一朝一夕に生まれた Web サービスではない。オープンの7、8年前から温められてきたアイデアを具現化したもの。実は株式会社韋駄天の代表取締役・田元幸洋氏と、同社で〈日本橋 Art.jp〉を担当する高橋毅氏は以前から日本の文化全般が好きで、美術はもちろん、歴史や文学、芸能といった文化を、もっと世に広めたいと考えていたのだ。美術への思いは、オフィスのエントランスに飾られた作品からも想像できるかもしれない。この版画は、源氏物語誕生1000年を記念して源氏物語五十四帖の各巻をモチーフに作られた版画のひとつで、第四十一帖『幻』。田元代表がこだわりをもって購入したものである。彼の考え方は、韋駄天の社風にも反映されている。水曜日の昼休みは、他の曜日より30分長い1時間半に



## NIHONBASHIART.JP

**日本橋から  
日本美術の  
魅力を発信**

1993（平成5）年に当時の郵政省（現・総務省）がインターネットの商用利用を許可し、その3年後の1996（平成8年）、Yahoo! JAPAN が設立。今や日本を代表するこのポータルサイトがインターネットへの導入窓口となったこともあり、Web 関連の多種多様なサービスが普及していった。現在では、多くの老若男女がインターネットを紹介して様々な利益を受けている。

トータル Web サービス企業として2008（平成20）年に誕生した株式会社韋駄天。日本橋堀留町に本社を置くこの会社は、これまでポータルサイトの企画・運営、インターネット広告代理、インターネットコンテンツ制作のマーケティングなど多彩な事業を展開してきた。そして昨年10月31日、日本の絵画、美術工芸品を紹介する



日本橋堀留町にある株式会社韋駄天のオフィス。アート好きな社長が作っただけのことはあり、壁には趣味の良い作品が飾られている。

設定。延長した30分間を利用して、社員たちが美術など日本橋エリアの文化に触れられるよう意図したらしい。

会社創立10周年という節目の年を迎えた昨年、本社のHP事業の契約企業が全国で7000社を突破し、安定期を迎えた。こうした好業績もあり、「何か新しいことをやってみよう」という気運が盛り上がり、美術専門サイト〈日本橋 Art.jp〉をスタートしたのだ。

日本橋 Art.jp の注目作家より抜粋



永都叶千 《鋭気濃穂・信長》  
2013年／日本画混合技法、キャンバス／60.6 x 50.0 cm



小池壮太 《貴婦人》  
2018年／油彩、麻布／27.3 x 41.0 cm

橋の歴史をより意識したデザインを取り入れるよう構想中です。我々はスポーツ選手のトレーナーや、ビジネスの世界のコンサルタントのように、日本橋 Art.jp を作家のフィクサーのような存在にしたいと考えています。美術の世界には師が存在しますが、販売やブランディングなどのマーケティング、プロモーションに関してはまだまだ開拓の余地があるはずです。作家が輝くための土台をつくる存在になりました。

いと考えても、そこには一般的な視点を持ち、一般の方に響く言葉で伝えることが必要。作家の最も良い部分を引き上げて、言葉に落とし込み、Web上で最大限に展開する……これは、ホームページをいくつも作ってきた我々だからこそできる強みなのです」  
こうした高い志を持ち、日本橋から美術を中心とした日本文化の素晴らしさを発信する日本橋 Art.jp の活動に、今後も注目していきたい。

錦絵や江戸歌舞伎などの江戸文化の中心を担ったのが、日本橋だ。日本橋は五街道の起点であり、情報が集い、物流の拠点として全国から様々な物資が集まった。さらに海外の情報を全国に向けて発信する場所でもあり、『解体新書』をはじめとする西洋医学の本も出版され、蘭学が確立されている。こうして海外文化を積極的に受け入れてきた日本橋だが、同時に伝統を守り続ける街でもあった。現在も残る日本橋の橋柱の文字は江戸幕府最後の將軍、徳川慶喜の筆によるもので、柱には五街道起点の象徴として一里塚の松と楓がデザインされているのである。

「日本橋 Art.jp」では、江戸と現代をつなぐ日本橋から普遍的な価値を持つ絵画や美術工芸品を国内外に向けて紹介すると同時に、若手作家の情報や展覧会情報などを発信し、作品やギャラリー、展覧会についてWeb上で紹介。独自の「Web上の企画展」も実施している。ちなみに、作家を選考する際、ジャンルや作風、性別、年齢、キャリアは問わない。唯一の基準は、積極的に作家活動をしているかどうかだ。日本橋 Art.jp の高橋氏は、アーティストの大半が絵を描きながら別の仕事をしている現状を嘆き、彼らを支援しようとしている。さらに何かを創造し、売るといふことに対する答えを生み出すための考え方を教える土台づくりこそが、本当の支援だと考えているようだ。高橋氏は語る。

「アートで食べていける人を増やすために、チャンスや告知の機会を増やすことが我々の役割だと考えています。準備期間を含め日本橋 Art.jp がスタートして1年。登録者のほとんどが現代アートの作家であり、育成の土台は少しずつ出来てきたように思います。また、文化の継承という観点から、今後は物故作家の取り扱ひも増やしていきます。一般の方が現代アートを観る機会を増やし、もう一度日本の文化を振り返って、次の世代につなげるためです。美術に限らず、総じて日本人の価値観には土台がないのではないかと感じることもあります。他国で評価されたから評価する……という流れだけでは淋しい。海外で評価されたものを逆輸入するだけでなく、身近なものにも価値観を抱いて欲しいのです。江戸の人々が浮世絵を長屋に貼ったように、この先もずっと絵がある生活が日本人にとっては当たり前の常識になる文化を、この日本橋 Art.jp を通じてつくりたいと思います。」

日本橋から発信するポータルサイトですから、サイトを刷新時には、日本



「日本橋 Art.jp」の現状や今後の可能性について真摯に語ってくれた高橋毅氏。